

## 秋晴れの中「上州どっと楽市」大盛況

高崎卸商社街(協)

10月21日～22日の両日、高崎市・ビッグキューブや問屋町中央公園などにおいて、一般消費者向けの大販売会「上州どっと楽市」を開催した。春と秋に行う恒例イベントで、今回は第33回目となった。

組合員をはじめ、県内各地から様々な業種の94店舗が出店し、楽市ならではの価格で日用品などが販売された。また、展示コーナーや体験コーナーが設けられた他、イベントステージではカバーバンドフェスなどの催しが行われた。

来場者は2日間で約1万9,500人にのぼり、お買い得品や掘り出し物を探し求める姿や、バラエティに富んだイベントを楽しむ様子が会場の至る所で見られた。



終日多くの来場者で賑わった



ステージイベントも大人気

## 2024年診療・介護報酬改定の最新情報をキャッチ

おおぞら介護事業(協)

11月4日、高崎市・高崎市総合福祉センターにおいて研修会を開催。2024年は、3年に一度の



業界の関心が高く、多くの参加者が出席



介護報酬改定と2年に一度の診療報酬改定が重なるため、大幅な改定が予想されることを受けて、研修会を企画した。

講師を務めた医業経営コンサルタントの酒井麻由美氏は、改定が目指す方向性は、「高齢者の病状の重度化の予防」と「オンライン診療の進展」であると説明。その方向性を背景に、今後は、病院・歯科医・介護施設が連携し、地域で高齢者をケアしていく体制の構築に対して、診療・介護報酬の見直しが行われると考えられるため、こうした動きに対応できるよう組織づくりに努めてほしいと呼びかけた。

## 鹿児島県の特定地域づくり事業(協)と交流し課題やノウハウを共有

みなかみ町特定地域づくり事業(協)

11月7日、みなかみ町・組合事務所において、地域人口の急減に対処するための組合である、鹿児島県のヨロンまちづくり協同組合と意見交換会を実施。各々の組合の理事長や事務局に加え、支援機関やみなかみ町の職員も同席した。

組合設立の目的や経緯、現在の運営状況や課題、将来的な展望、行政との関わりなどについて、意見交換を行った。



共通する事業を行う組合同士、活発に意見を交わした

# Local Area News

## 東京都中央会が開催する 組合まつりに出展 桐生織物(協)/群馬県こけし(協)

11月8日～9日の両日、東京国際フォーラムにおいて、東京都中央会が開催する「組合まつり inTOKYO」に出展し、組合員が取り扱う製品の展示・販売を行った。会場には、東京と全国の約130の中小企業組合がブースを構え、組合や組合員の製品紹介や匠の技の実演などを行い、商品の魅力を披露した。

桐生織物(協)は、ネクタイをはじめ、帯地製造で発生する余り布を再利用して作ったバッグ類、ヘアアクセサリなどの繊維製品を展示販売、早々と完売する商品もみられた。

群馬県こけし(協)は、創作こけしやキャラクターを象ったこけしを展示。来場者は、気になったこけしを手にとったり、自身のスマホで撮影するなど、関心の高さが窺えた。



一点モノなどのオリジナルの繊維製品が並ぶ



海外でも人気の創作こけし

## つまみ細工体験教室で 伝統織物「館林紬(つむぎ)」の魅力を発信 館林織物連合(協)

11月22日、館林市・日清製粉ウェルナ三の丸芸術ホールにおいて、館林市の伝統的な織物「館林紬」を使った「つまみ細工」の体験教室を開催。

1コマ1時間で4回行い、約50人が参加した。参加者は、小さな正方形の布を、ピンセットで丁寧に折り畳み、花の形のブローチに仕上げた。組合は館林紬の魅力発信していくため、今後も体験教室を続けていく予定。



つまみ細工に挑戦する参加者



館林紬が使われた様々な作品の展示も行われた

## 近隣の小学校に通う児童の見学を受け入れ

館林金属工業団地(協)

11月27日、館林市立第十小学校の5年生120人程の工場見学を受け入れた。これまで、少人数の見学の受け入れは行ってきたが、1学年全員の受け入れは初めて。組合事務所では、鈴木郁男理事長が工場団地の歴史や共同受電の役割などを説明した。

また、工場見学は、組合員5社が対応。小学生を20人程度のグループに分けて実施した。株式会社ノザワでは、まず、見学に来た小学生ひとりずつに社長自身の名刺を手渡した。受け取った小学生は、本物の名刺に興奮。次いで、工場内の機械設備や工具を紹介すると、初めて見る工場内を興味深そうに見ていた。工場見学は、約2時間超えとなり予定時間を少しオーバーしたものの子供達は満足そうな様子であった。



ノギスを紹介する野澤義一社長